

2. 農業者以外と協働するための 方法や工夫

地元企業と協働する方法

① 地元企業と協働する理由

今後、さらに雑田堀用水の親水性を向上させ、生態系を維持・発展させていくためには、...

：

清掃活動などの用水路の管理

＋ 流域一帯に広がる農地の保全

＋ 地域住民・**企業等**の理解や協力



「Team雑田堀」の設立

地元企業と協働する方法

② 以前からの地元企業の地域協力

飲料メーカー

- ・ビオトープの用地の協力
- ・ビオトープ完成祝賀会の会場や飲料等を無償で提供

菓子メーカー

- ・地域の子どもたちに菓子等を無償で提供

総合卸売市場

- ・「地元の小学校の部屋」(活動発表コーナー)を無償で設置

博物館

- ・地域の博物館として小学校米作りクラブの指導や教育活動の連携

地元企業と協働する方法

③ 地元企業へ活動組織加入の働きかけ

- ・「地域の一員として協力してください。」
とお願いした。

飲料メーカー、菓子メーカー、総合卸売市場、博物館

地元企業と協働する方法

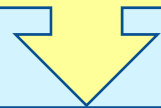
④ 企業との協働の進め方

- ・企業から社員を清掃に参加させる申し出があった。
- ・毎回土曜出勤になるため、無理してもらっていない。

- ・児童、PTA、農業者、地域住民、企業、行政の各主体が同じ目標を目指す、同じことをするのではない。
それぞれが得意なことをして全体で達成する。＝「協働」

地域協力者と協働する工夫

構成員以外の地域協力者
との協力・連携



農地維持支払の推進活動
の一環として、一緒に
「地域活動懇談会」を開催

例) 農林水産省「疎水百選」
に選定された「府中用水の
保全」の話題など



子どもたちの参加を促す工夫

① PTAの協力によるイベントの実施

- ・子どもたちは、清掃終了後に季節ごとのイベントに参加する。
- ・イベントは地元の小学校PTAが運営する。

用水路での
ザリガニ釣り



子どもたちの参加を促す工夫

① PTAの協力によるイベントの実施

用水路で採れる数珠玉からお手玉づくり



おはなしブンブン
(図書の読み聞かせ)



その他(屋外紙芝居・パソコン教室など)

子どもたちの参加を促す工夫

②ポイント制の導入

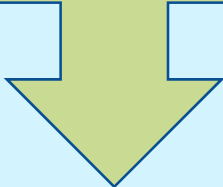
ポイント制で、小学校PTA
と雑田堀用水に親しむ会が、
雑田堀清掃、資源回収、
ベルマークにたくさん参加
した子どもたちを表彰

さらに積極的に参加



PTAや教職員等と協働する工夫

役員交代、卒業、異動等によるメンバー入れ替わり
協働を続ける難しさ



自分の子が卒業後も、地域住民の一人として協力

3. 都市部の課題やメリット

都市部の課題＝当地域の課題

① 農地や用水路の存続が困難

- ・東京の農地は、相続によって宅地化されやすく、維持が難しい。
- ・農業用水路は、水田面積の減少により、流域農業者の負担する用水費では取水ポンプの電気代が足りず、全く流れなくなる可能性がある。

地元農業者や住民がもっと地域資源に関心を持ってもらえるよう、情報発信が必要。

都市部の課題＝当地域の課題

② 農業者と都市住民との共生

ビオトープのガマが繁茂

住 民
良い景観

農業者
水が流れない

全部刈らず、一部残して水を流す

各主体の意見を理解・尊重



都市部のメリット

①農地や用水路が希少なため、
農業者以外も地域環境を守りたい、
あるいは、農を体験したいと思って、
互いに協力し合える可能性。

②施設や企業、大学などの
地域資源が多いため、
互いに連携できる可能性。

4. 農業者以外との協働による 活動地域や周辺地域の変化

協働による地域の変化

① ビオトープが実現できた

- ・市の整備についての請願の署名が、1週間で1,400人も集まった。
- ・市の整備にあたって、児童・PTA・地域の方・小学校・行政などが意見交換を重ねたため、良いものができた。
- ・完成したビオトープには、専門家や大学等が自然に集まった。
⇒生態系の維持ができている。



協働による地域の変化

② 農業者以外の人々が戦力になった

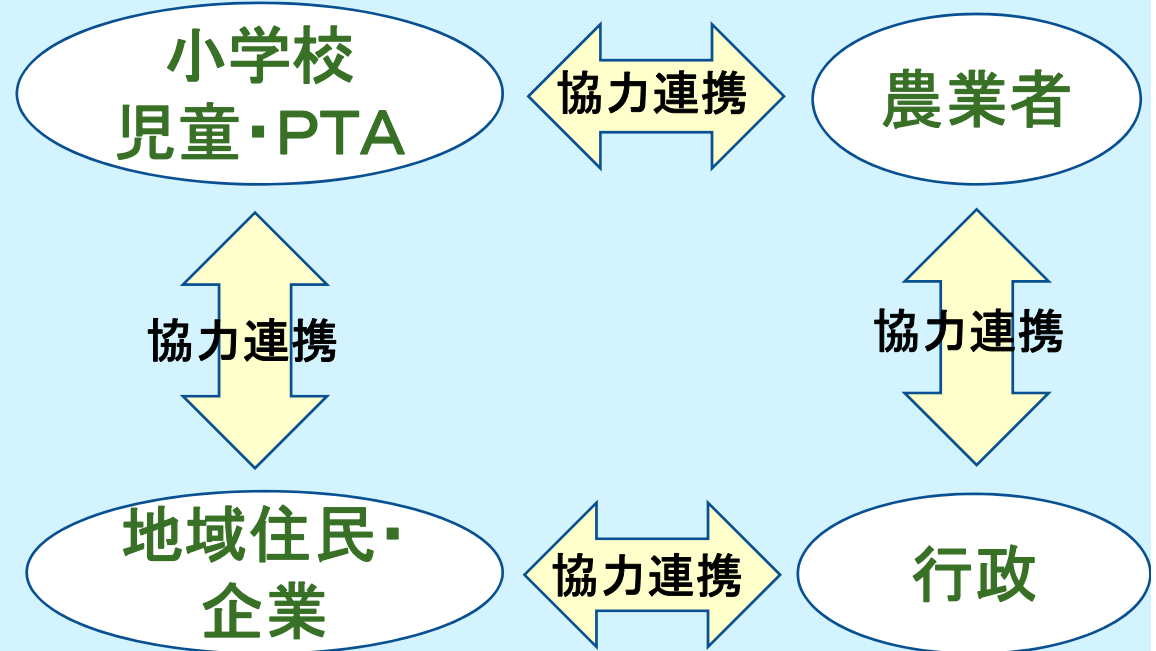
- ・毎月清掃する子どもたちは貴重な戦力。
- ・多様な主体の参加によって、花植えなどの活動を増やすことができた。
- ・JAからの申し出など、新たな協力者が増えた。



協働による地域の変化

③活動地域全体の結束力が高まった

・協働を通じて、多様な主体
の協力連携が強化された。
⇒活動地域全体の結束力
が高まった。



協働による地域の変化

④ 地域資源へ興味を示す往来者が増えた

- ・地域資源の魅力を高めたり、絶滅危惧種の看板を設置して情報発信を行ったりしたことで、地域資源に興味を示す人々が増えた。
⇒通行する人から気軽に声をかけられる。

- ・親水路やビオトープが憩いの場となり、往来者、遊ぶ子や親子連れが増えた。また、ひまわりが名所となり、撮影者が多かった。
⇒菓子メーカーの店舗の客が増えた。



5. 今後の展望

今後の展望

①活動地域内の全体の活性化に向けた取組み

- ・地域活動懇談会の充実を図る。

②都市の農地や用水路の存続に向けた取組み

- ・地元農業者や住民が、もっと地域資源に関心を持ってもらえるよう、情報発信を行う。
- ・このため、「Team雑田堀」のホームページを開設して、地域資源の魅力や絶滅危惧種の情報なども発信して行く。

ご清聴ありがとうございました。

チーム ぞうだぼり
Team雑田堀【テーマ：多様な参画・連携の促進、女性の活躍】

項目		説明内容	備考
活動場所		東京都府中市矢崎町、是政、南町および本町	3集落
対象農用地面積		全体1.92ha(田:0.19ha、畑:1.73ha、草地:なし)	
対象施設		水路 0.7km、農道 なし、ため池 なし	
交付金額		農地維持支払 約4万円 資源向上支払(共同) なし 資源向上支払(長寿命化) なし	平成28年度
活動開始年度		平成27年度～	
組織の構成員		農業者 ……16名 非農業者……26名 雑田堀用水に親しむ会3名、地元の小学校PTA11名、地域住民6名、市議会議員2名、地元企業4社の代表者等(飲料メーカー・菓子メーカー・総合卸売市場・博物館)	合計 42名 (男性 26名) (女性 16名)
主な活動内容	農地維持活動	平成14年頃より地元の小学校の児童やPTAを中心に「雑田堀」の清掃活動が始まったが、毎月1回と随時に実施し、14年間継続している。 平成27年度に交付金を受けるのを契機として、流域農業者が地域住民や地元企業とも協働する「Team雑田堀」を立ち上げ、用水路脇への植栽活動、ビオトープへの絶滅危惧種の移植、小学校と連携した農業体験学習、緑肥・景観のためのひまわり栽培・ポピー栽培(地元JAとの連携)等に取り組んでいる。 推進活動としては、構成員以外の地域協力者との協力・連携を図るため、意見交換会を実施している。また、児童の参加を増やすため、参加するとポイントがもらえて年度末に表彰されるような工夫を行っている。	活動参加者の割合 農業者:非農業者 =1:9 男性:女性 =4:6 子ども:壮年:高齢 =5:3:2